

子どもたちの 笑顔を見たい

「紙しばい倶楽部とわだ」

MEMO

「紙しばい倶楽部とわだ」の皆さんは市民図書館で、紙芝居による“おはなし会”を毎月開催しています。12月2日の演目は「はははーくしょん」「ふたりのサンタ」「こころの冬じたく」で、大勢の親子がじっくりと聞き入っていました。



紙芝居を始める前には、子どもたちに手洗いうがいの励行を、歌と振付けで教えます



写真は昨年12月2日の“おはなし会”に集まった会員の皆さん。左下から、橋場妙子さん、三戸笑実子さん、田岡信子さん。左上、野月たか子さん、小笠原良子さん、小野寺功さん、鳥山幸子さん

「紙しばい倶楽部とわだ」（鳥山幸子代表）は、本市を中心とした紙芝居好きの14人が集まり平成22年に結成しました。市民図書館で毎月1回土曜日に、子どもたちの感性を豊かにするため、紙芝居による「おはなし会」を開催するとともに、地域の保育園や公民館まつりでも紙芝居を演じ、紙芝居の面白さを伝えていきます。

「紙芝居は、子どもたちの笑顔を見たくて演じています。紙芝居は奥が深いものだと思います」と代表の鳥山幸子さん。

同会は昨年6月、長年の活動が評価され、子どもの読書活動優秀実践団体として、文部科学大臣表彰を受けています。

「おはなし会」で紙芝居を演じていた会員の皆さんに、紙芝居活動についてお話を伺いました。

三戸笑実子さんは「お話し会」では、毎回子どもたちと楽しみながら演じています。学校や介護施設で演じるのも楽しいですよ」、橋場妙子さんは「子どもたちが、もっと市民図書館へ来て私たちの紙芝居を楽しんでほしいですね」、田岡信子さんは「市民図書館で自分も一緒に皆さんと練習しています。これからは子どもたちを楽しませていきたいです」と、それぞれ話します。

12月16日、同会は市民文化セン

ターで「紙芝居劇場スペシャル」を開催し熱演しました。演目は「ねこのおかあさん」「五色のしか」「あとかくしのゆき」などのほか、大型紙芝居による「おだんごころころ」。

同会は、東日本大震災の被災地支援のため、「紙芝居ライブ」による収益金を、平成24年から陸前高田市に児童図書購入費として寄付しているといいます。

紙芝居は、観客の心をあつという間に紙芝居の世界に引き込みます。会員の語りも巧みなため、まるで声優が語っているようです。

「紙芝居は小さい子から大人まで楽しませられる世界」です。これからもたくさんの人に楽しんでもらいたい」と小笠原良子さん。

野月たか子さんは「日本独自の文化である紙芝居の魅力を伝えたいし、楽しんでいただきたくて日々皆さんと勉強し、企画をしています」と紙芝居の魅力を話します。

小野寺功さんは「『紙しばい倶楽部とわだ』のほか『わっこの会（読み聞かせ）』と『語りの会・こま草』で活動しています。子どもたちができるだけ本を読む機会を作ってもらいたいし、ぜひ市民図書館に足を運んでほしい」と、本や紙芝居で、子どもたちが豊かな心を育んでくれることを願っていました。